

トイレはその家の心です！

9月21日（土）にPTA保健体育研修部の事業として、「都留二中を美しくする会 掃除に学ぶ会」を行いました。当日は、掃除の大切さを見つめ直そうという目的で設立された「日本を美しくする会 やまなし掃除に学ぶ会」の皆さん（10名）に協力をいただき、2時間かけて各分担場所のトイレ掃除を実施しました。

掃除を終えた生徒たちからは、こんな感想がありました。（2-4学級だより「前進」より抜粋）

- ・掃除はしないと汚いままなのでしなければならない。しかし、「やらされる」のではなく「自分からやること」が大事なのだと思った。
- ・掃除は好きじゃないし、面倒だと思っていたけど、普段使っているトイレも誰かが綺麗にしてくれるから使えるし、「見えないところで頑張ってくれている人」はすごいと思った。小さなことでも全力で一生懸命にできる人になりたい。
- ・掃除はただ綺麗にするというだけじゃなく、人格も向上させるということがわかった。
- ・今まで家の手伝いとかを深く考えたことがなかったので、小さな事からはじめていきたいと思った。
- ・中学生として、家だけでなく地域の活動とかにも積極的に参加して手伝いをしたいと思った。

学校だよりNO8号にも「親子がともに成長していくために」という見出しで、トイレ掃除についての内容で掲載しましたが、夏休み中に親子で掃除をする機会を持っていただけたでしょうか・・・？

どこのご家庭も、本当にありがとうございました。

トイレは「**その家に住む人の心**」を表すと言います。トイレは、家の中のいくつもの部屋の中でも、使用頻度の高い部屋だと思えます。当然、トイレを使わない人はいませんので、汚れる割合も高くなる部屋でしょう。そんな汚れやすいトイレですから、常に気を遣って清潔を保つことが必要となります。そんな、気遣いのできる人の住む家は、真心が一杯の家なのだと思います。

大人の中でも「掃除」に対する考え方は様々です。でも、たとえ「やらされてきた」掃除であっても、大人（社会人）は「職場がきれいであると働く意欲が出てくる」ということを体験で知っています。また、「家の中が片付いていなくて、掃除が行き届いていなければ、落ち着いて生活できない。」ことも分かっています。まれに、汚れている方が落ち着くという方もいるかもしれませんが・・・。子どもたちに勉強させることは必要です。それと同時に、勉強に適した落ち着ける生活環境づくりも欠かすことのできないものだと思います。そして、自分の環境を自分で整えていくという気持ちを作っていくために掃除は欠かせないものです。

少し前になりますが「トイレの神様」という歌が流行りました。その歌詞は「トイレには それはそれはきれいな女神様がいらっしゃるやで だから毎日キレイにしたら 女神様みたいにべっぴんさんになれるんやで！」というものでした。こんな気持ちの持てる子どもは、誰からも愛される人、心配りのできる人といえるのだと思います。たかが掃除、されど掃除です。べっぴんさんやイケメン目指して、一步一步積み重ねていきましょう。

「一つ拾えば 一つだけキレイになる」

また、パナソニック（旧、松下電工）の創設者の「松下幸之助」氏はこんなことを言っています。

- ①社会人として、きれいな環境でなければ、いい仕事はできない。
- ②掃除一つしっかりとできない人に、大事な仕事を任せることはできない。

子どもたちも、やがて社会人になれば、目的や意識を持って掃除をするときが来ると思います。自分が働く職場やその職場のトイレが汚ければ、働く人だけでなく、職場（会社）を訪れる人も不快な思いをするでしょうし、会社の信用問題や営業成績にもつながることは必然です。

これからこんな気持ちの持てる大人に成長していったらいいと思います



都留第二中学校だより

校訓 日新
学校教育目標
・美しい心
・輝く知性
・たくましい体

都留第二中学校学校だより
NO12

平成29年10月25日(水)
文責 小俣 一夫

日新

きまりのある学校生活

過日は非常に大きな台風21号により急遽、臨時休業となりましたが、その後は天候も落ち着き爽やかな秋晴れの日が続いています。中間テストも終わり、めっきりと日暮れが早くなっており、いよいよ秋も終盤にとさしかかっていますが、校舎内では夏の元気そのまま、一日中、生徒の元気な声が校舎内外に響いています。

さて、江戸時代の会津藩に「日新館」という藩士の師弟が学ぶ学校（藩校）がありました。その学校では、生徒たちに「什の掟」（子弟教育7ヶ条）というきまりを訓示したそうです。

什の掟（じゅうのおきて）

- 一 年長者の言うことに背いてはなりません。
- 二 年長者にはお辞儀をしなければなりません。
- 三 虚言を言うことはなりません。
- 四 卑怯な振る舞いをしてはなりません。
- 五 弱い者をいじめてはなりません。
- 六 戸外で物を食べてはなりません。
- 七 戸外で婦人と言葉を交えてはなりません。

ならぬことはならぬものです。



私たちがよりよい社会を実現していくためには、正義を愛する気持ちが大切です。しかし、正義を妨げるものに、人々の偏見や差別、不正な行為というものがあります。そこで、改めて私たちはいじめや暴力などの不正な行為を絶対に許さないという態度と行動が必要だと考えます。

先日の「学力向上親子学習会」でも、話題に取り上げましたが、最近、携帯電話やスマートフォン、タブレットやパソコン等を使い、いつでも、どこでも手軽にインターネットに接続し、情報の収集や発信を行うことできるようになっています。ツイッター、インスタグラムなどネット上に軽い気持ちで書き込んだ言葉やスマホで撮ったおもしろ動画をYouTubeにアップロードすることが、友だちの人権を侵害してしまうことにもなりかねません。書いたり、撮ったりした本人は、ほんの軽い気持ちでやったとしても、それは書かれたり撮られたりした人の立場とすると、間違いなくいやな思いをし、人権侵害に当たります。被害状況によっては、警察に通報され、刑事事件として法律によって保護者が裁かれることもあるかもしれません。さらに、事件の内容によっては、報道やマスコミも介入し、一気に全国へと広がってしまいます。

昨今、個が大切にされ、何かと「理由」が重視される現代です。もちろん個を大切に、一人一人の「なぜ？」はとても大切なことではありますが、時には「ならぬことはならぬ！」という強い信念と毅然とした態度も必要であると思います。そんな集団の中で生徒一人一人が互いの個性を認め合い、思いやりの心を持って中学校生活を送ってほしいと願っています。

学校では、子どもたちに自分と他者を大切に尊重し、社会のルールを守り、主体的に行動する態度を育てたいと日々指導を行っています。保護者や地域の皆様方には、ご家庭や地域の中で、生徒の間違った言動を見かけましたら、「ならぬことはならぬ！」という毅然とした態度でのご指導をいただければ幸いです。

「なぜならぬのか・・・」ということは、生徒自身が真剣に考えれば当然わかることがほとんどであると思います。15歳の今、たとえわからなかったとしても、何年か先には、感謝と共にわかる時がくると信じます。

学校が「ならぬことはならぬ・・・！」と毅然とした態度で指導をしていかなければならないこと

- ・スマホを平然とカバンに入れて学校に持ってきている生徒に対して（授業に必要なものを持ってこないというのが学校のきまりです。）
 - ・場に応じて敬語を使わない生徒に対して（使えないでなく使わない）
 - ・友だちを大切にしない生徒に対して
- ※結果として、このようなことが事件や事故に繋がってしまっている現状もあります。



支部新人大会が終わりました！

10月7・8・9日の3日間にわたって、都留地区新人体育大会が実施されました。1日目はあいにくの雨でしたので、競技によっては延期になりましたが、2・3日目は、秋晴れの最高のコンディションの中で実施することができました。夏の総体で3年生が引退してから3ヶ月、1・2年生で新チームを作り、短い期間でしたが朝に夕に熱心な練習を積んできました。試合結果は、次のとおりです。なお県大会出場は種目によってはオープン参加になっていますので、ご承知ください。

バレー部	男子	都二中2：都一中0	第1位	県大会出場
	女子	都二0：都一2 都二0：東桂2 都二0：西桂2	第4位	
卓球部	男子	都二3：東桂1 都二2：道志3 都二3：都一2	第2位	県大会出場
	女子	都二3：東桂2 都二3：都一1 都二2：道志3	第2位	県大会出場
バスケット部	男子	都二42：東桂35 都二26：都一78	第2位	
	女子	①都二61：西桂47 ②都二94：都一29 ③都二89：東桂36	第1位	県大会出場
ソフトテニス部	男子	個人：2位 國田雄賀&小林聖英	団体2位	県大会出場
	女子	個人：4位 森嶋友香&菊地佑梨 6位 小林凜&小俣直歩	団体2位	県大会出場
弓道部	男女	個人：1位 大野菜々美 2位 菅谷美歩 3位 近藤みのり 団体：第1位 大野菜々美 菅谷美歩 竹田琴美	団体第1位	県大会出場
剣道部	男子	個人：2位 佐藤伊央理	団体第2位	県大会出場
	女子	個人：1位 山本麻斐瑠 2位 渡邊瑳己 3位 菅谷吏恵	団体第1位	県大会出場
サッカー	男子	①都二0：西桂4 ②都二：東桂	第3位	県大会出場
野球	男子	①都二0：西桂4 ②都二2：都一道志東桂14	第3位	

生徒の皆さんへ

3年生が夏に引退してから、2年生を中心とした新体制での各部の様子はどうか？

チームワークは？ 先輩、後輩の関係は？ 練習量は？ 練習のメニューは？

新しいキャプテン（部長）を中心に、自分たちに合ったように、自分たちのやりやすいように変えましたか、変わっていますか。

そして、その積み重ねが、その部活動の「伝統」となっていくのだと思います。ここで、考えてほしいのは部の伝統とは、何んだらうかということです。確かに、良き伝統を持った部はどこにでも結構あると思います。しかし、良き伝統を持っているからといって、それに頼っていていいのでしょうか。伝統とは、それを守っていくだけではない、すたれます。すたれる前に軌道修正を行い、時には抜本的な改革を行い、高いレベルを保ちつづけてこそ伝統なのでしょう。自分が教わったものをただ下級生に引き継いでいくことだけでは、決して伝統を守ることにはなっていないと思います。改善・改良を続けていくことで確実に伝統は引き継がれていくと思います。そうして、改善しつづけていくことこそが、本当の伝統なのだと思います。それができたときに、学園祭のテーマでもあった「時の流れを越えていく」ことが出来るでしょう。

繰り返しますが、伝統とは、受け継ぐものではなく、自ら作るものなのです。その伝統を作る第一歩が、今回の新人戦でした。ぜひ、チームとして、個人として、最善を尽くしてこれから頑張ってくださいと思います。

そして、引退した3年生には、卒業までのあと5ヶ月間、後輩のチームづくりをしっかり見守って、時にはアドバイスを送ってほしいと思います。必要であれば、出しゃばっても嫌われても指導もお願いします。

新チームのスタートに当たってこんなことを実行してみてくださいか？

部活動で結果を残すために

①真似ろ

先輩 仲間の上手なプレー TV プロ選手など一流と呼ばれる選手のプレー 同じポジションの選手の動き

②記録しろ

ノートを1冊用意して下さい。記録日記です。

・学んだこと・考えたこと・先生、コーチなどからのアドバイスを記録しておく。

③感謝しろ

リスペクトです。先輩 親 友だち たくさんの人たちに支えられていることに感謝して下さい。人に感謝できない人に上達はありせん。お世話になっている人の話を素直に聞けない人には進歩はありません。



GK拓也 ゴールの守りは俺に任せろ！



「第1回 教達検」が行われました。

10月3日（火）第1回目の教達検が行われました。教達検って何？っていう生徒や保護者もおられるかと思いますが、これは、正確には「教育課程到達度確認検査」といいます。通称「教達検もしくは校長会テスト」と言われています。この「教達検」というテストは、基本的には山梨県内の中学校3年生が受けます。山梨県中学校進路指導総合連絡協議会という組織があり、この協議会が中心となって中学3年生の進路についての情報をまとめ、各地域や学校がその指導に当たるといいます。現在、このテストには甲府地区だけは参加していません。

具体的には教達検の結果をもとに、これから進路指導を行っていきます。当然ですが、各高校には募集定員がありますので、誰もが希望の高校へ入ることはできません。そこで、〇〇高校は定員が200名の所へ240名が受験するという場合に、自分はどうしたいのかの得点だから、大丈夫だとか、ちょっと点数が足りないという判断ができることとなります。つまり、この場合に、40名位の生徒は進路の変更をした方がいいかもしれないということとなります。現在、甲府地区はこのテストに参加していませんが、郡内地域の高校（日大明誠、上野原、都留、興譲館、吉田、北陵 ひばり、河口 学苑・・・等）を甲府地区の生徒が受験するというケースは、ほとんど無いので、教達検から数字的には信頼するデータが得られます。甲府地域の高校や私立の高校を受験する生徒はデータ的には厳しい部分があるかもしれません。

H30年度の募集も、前期募集と後期募集があります。今年度の日程ですが、前期募集検査は2月1日（木）後期募集検査は3月7日（水）で行われることが発表されました。募集人数は高校によって違いますが、募集人数全体の30%程度以下が前期募集の人数となります。後期が5教科（100点満点 国社数理英+リスニング）に対して、前期は面接、特色適性検査（作文等）+特技・・・等になります。

なお、第2回目の教達検は11月9日（木）に実施されます。3年生は秋の夜長を計画的に勉強して、1回目より2回目は点数の伸びが十分に見られるよう努力をしていきましょう。各教科+10点程度の伸びを目標に頑張ってください。勿論、50点も伸ばす部分がない生徒もいますが・・・？

希望の進路に進むためには、この秋から冬への4ヶ月間（120日間）が勝負です。ここから3年生には暮れも正月もありません。背水の陣で覚悟と根性を見せるときは「今」です。



山梨県ラグビーフットボール選手権大会に出場しました。

9月24日（日）に御勅使南公園ラグビー場で、第37回山梨県ラグビーフットボール選手権大会が開催され、本校のラグビー部が出場しました。本校のラグビー部は「季節部」で、7月の総体まで各運動部で頑張ってきた3年生が集まって組織したチームです。夏休み中からメンバーを集め、練習を始めました。短い期間ではありましたが、生徒たちは土日も登校して、一生懸命に練習に励みました。また、数名の生徒は地域で活動している都留ラグビースクールに所属していたので、その生徒たちを核にチームを組み立てて当日に臨みました。また、夏休み中には本校の卒業生（都留興譲館高校ラグビー部）も応援に駆けつけてくれました。さらに、外部コーチとして長期にわたり、本校の卒業生でもある天野弘樹さん（宝在住）が技術面だけでなく、メンタルの面でも指導に当たってくださいました。本当にありがとうございました。

当日は、河口湖南中との対戦でした。不本意な結果でしたが、生徒たちは、「悔しさ」を一杯味わい、次のステップに向けての大きな収穫を得ることができました。

